

2019年2月、NISAで買われた投信はグローバル株!  
日本株は5カ月ぶりの純流出!! 今後の株反発により、  
さらなる純流出の可能性。

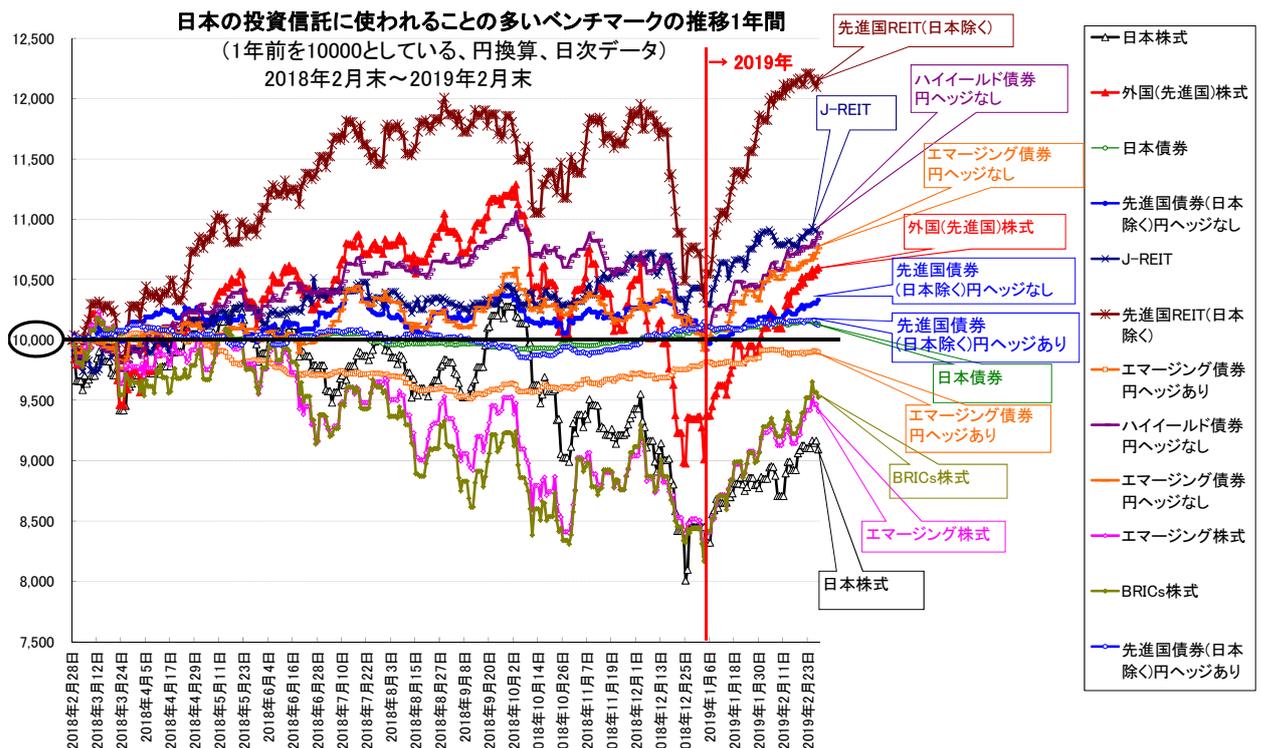
三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治  
窪田 真美

※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 最も好パフォーマンスは2019年2月は先進国株だったが1年・5年では先進国REIT!

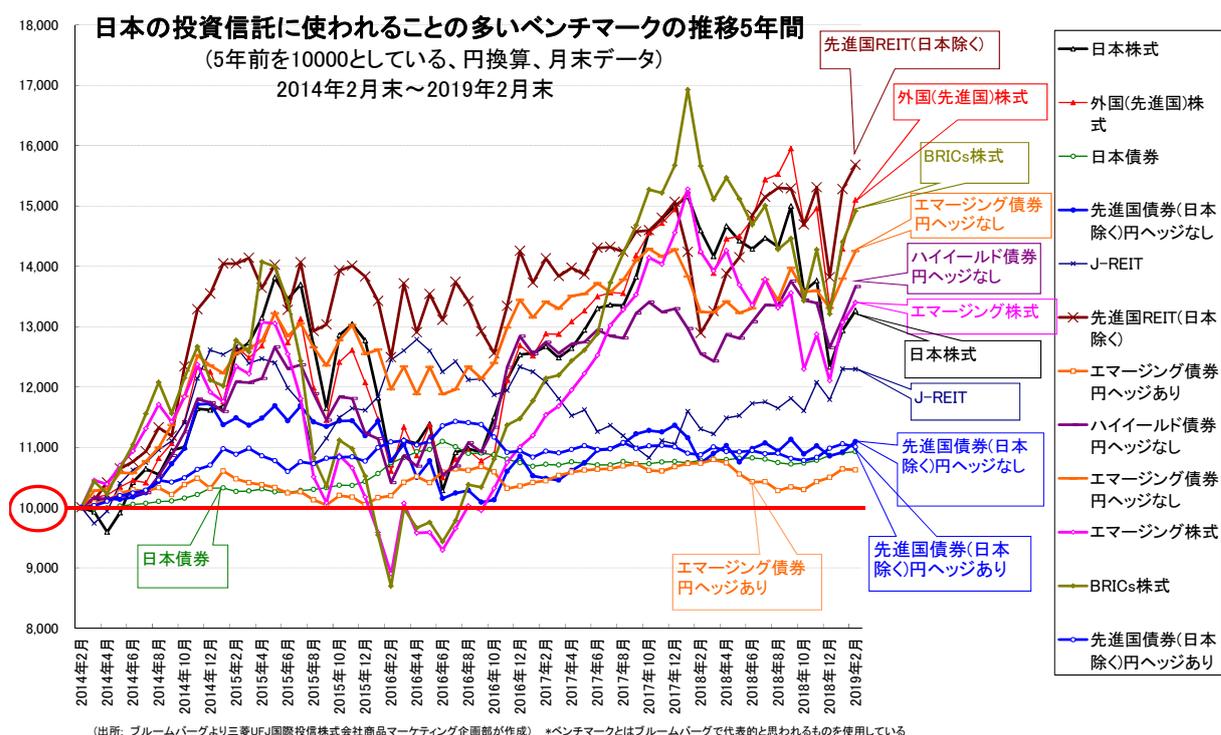
2019年は年明けから株価が反発上昇している。日本の株価指数を代表するTOPIXは2019年3月4日に1627.59(2018年12月5日來高値)と、2018年12月25日に付けた1415.55から+15.0%上となっている。米国の株価指数を代表するS&P500は2019年3月1日に2803.69(2018年11月8日來の高値)と、2018年12月24日に付けた2351.10(2017年4月21日以來安値)から+19.3%上となっている。米国では2019年、株価指数よりも高いリターンを上げる投信が増えていると言う。「**2019年入りから2カ月の時点で、投資信託の半分以上がベンチマークを上回る成績を上げている。**ゴールドマン・サックスのデータによると、この割合が維持されれば今年**は業界にとって10年で最良の年となる。…(略)…。ベンチマークを上回った投信の割合は約53%で、過去10年の平均は34%だった。**」(2019年2月27日付ブルームバーグ～URLは後述[参考ホームページ]①参照)と報じていた。この様にリターンが好転する中、日本では投信投資家はどのような投資を行っているのだろうか。恒例の最新2019年2月の投資動向を見る。

まず、日本の投信に使われる事の多いベンチマークの2019年2月末までの1年間のパフォーマンス推移を見る(下記グラフ)。2019年1月以降の急回復がよく示されている。1年間のパフォーマンスの好い順に、先進国REIT(日本除く)、ハイイールド債券円ヘッジなし、J-REIT、エマージング債券円ヘッジなし、外国(先進国)株式、先進国債券(日本除く)円ヘッジなし、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり、日本債券、エマージング債券円ヘッジあり、ハイイールド債券円ヘッジなし、エマージング債券円ヘッジなし、エマージング株式、BRIcs株式、日本株式、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり



2019年2月1カ月で最も良いパフォーマンスは外国(先進国)株式だ。2018年11月末からの3カ月では下から3番目、2018年8月末からの半年では下から2番目(最低が日本株)だった。ただ結果、3年では3番目に良く、5年では2番目に良いパフォーマンスとなっている。尚、日本株は1年や2018年8月末からの半年では、上記グラフのベンチマーク中、最低のパフォーマンスだったが、3年及び2019年2月の1カ月では6番目に良かった。

下記グラフは5年のパフォーマンスを見たもの。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT(日本除く)、外国(先進国)株式、BRICs株式、エマージング債円ヘッジなし、ハイイールド債円ヘッジなし、エマージング株式となっている(\*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国REIT(日本除く)は1年でも5年でも最も良かった。

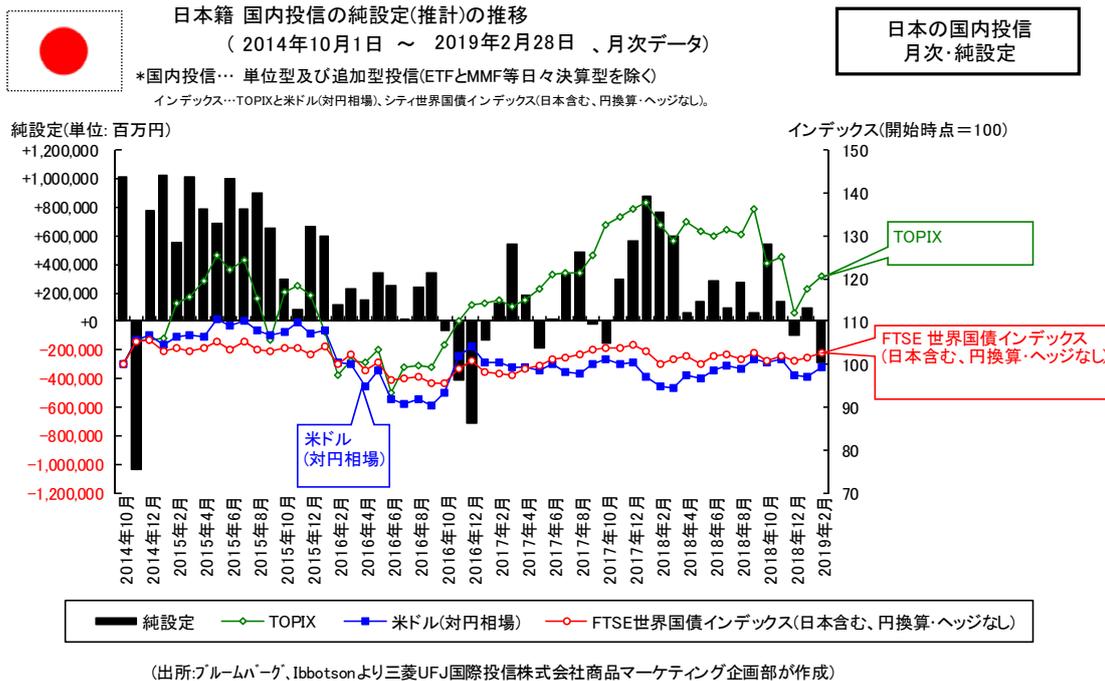


## 投信フロー最新動向～既存投資家(投信全体)はアセットアロケーション慎重型、グローバル株に純流入、日本株は5カ月ぶりの純流出! 今後の株反発により、さらなる純流出の可能性～

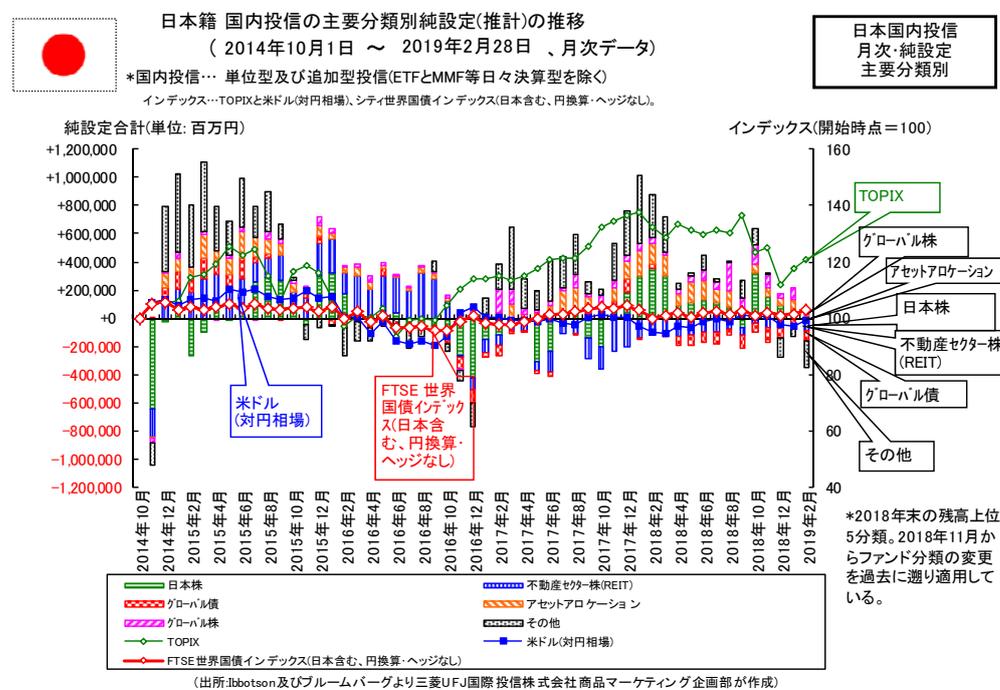
内外株価が反発上昇する中、2019年2月に、投信でどのような投資が行われてきたのだろうか。「つみたてNISA」を含むNISAにおける投資で、その半数超を占める投信の最新動向は、今後のNISA投資家に有用なものになると思われる。

投信の最新フロー(純設定)を見るに際して、NISA投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分ける事とする。NISAの「既存投資家」は投信全体のフローで代替し、NISAの「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※2参照)で代替する。

既存投資家(投信全体)の純設定は最新2019年2月に-2879億円と2カ月ぶり純流出となり、2016年12月(-7065億円)以来の2年2カ月ぶりの大きな純流出だった(←2019年1月+973億円←2018年12月-959億円～14カ月ぶり純流出←11月+1428億円←10月の+5403億円)。単位型では約145億円の新規設定があつて3カ月ぶりに純流入だった。追加型の純流出による所が大きい。



2カ月ぶりの純流出となった既存投資家(投信全体)の純設定を、投資対象別で見たものが下記グラフである(下記グラフは投資対象/主要分類～※1～に分けて見たもの)。2019年2月に最も純設定の大きかったのはアセットアロケーション慎重型(前月1月3位)、次いでグローバル大型株(前月1月1位)、ヘルスケア株(前月1月4位)、アジア債(前月1月11位)、通信株(前月1月10位)だった。

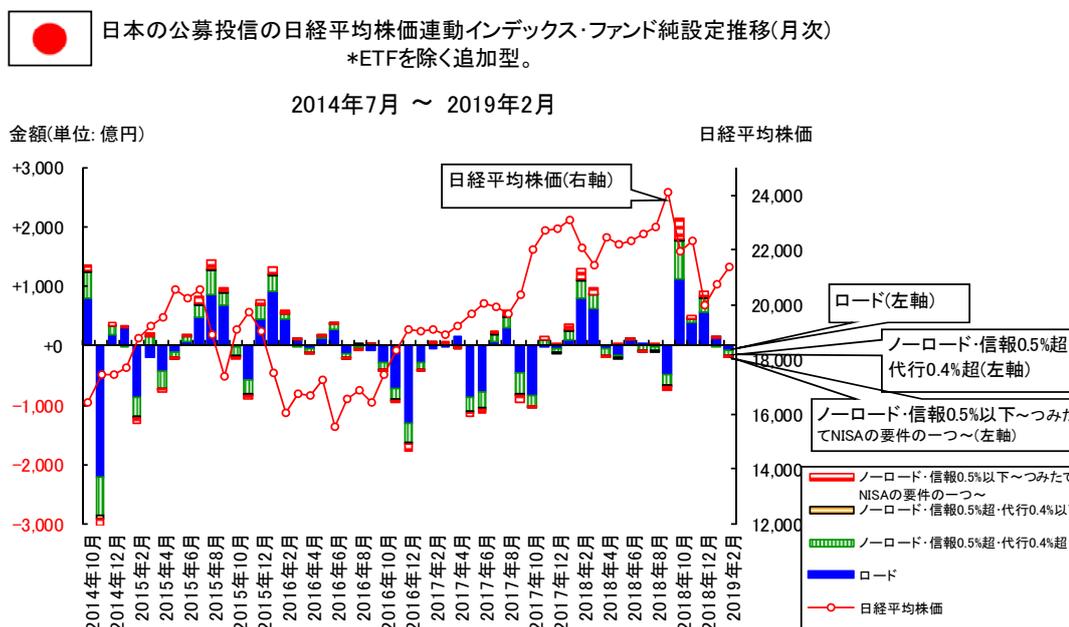


※1: 主要分類…モーニングスター分類で2018年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。ヘルスケア株、アジア債、通信株は「その他」に含む。

2019年2月の純設定が+244億円と最大だったのはアセットアロケーション型である。うち、慎重型は+396億円と堅調な純流入が継続、積極型(\*機動的な変更はしないが株式の組入比率が高い)も+12億円と小幅だが2カ月連続の純流入だ。だが、柔軟型(\*機動的に資産配分を変更)は-99億円と3カ月連続の純流出となった(前回の純流出は2016年7月)。

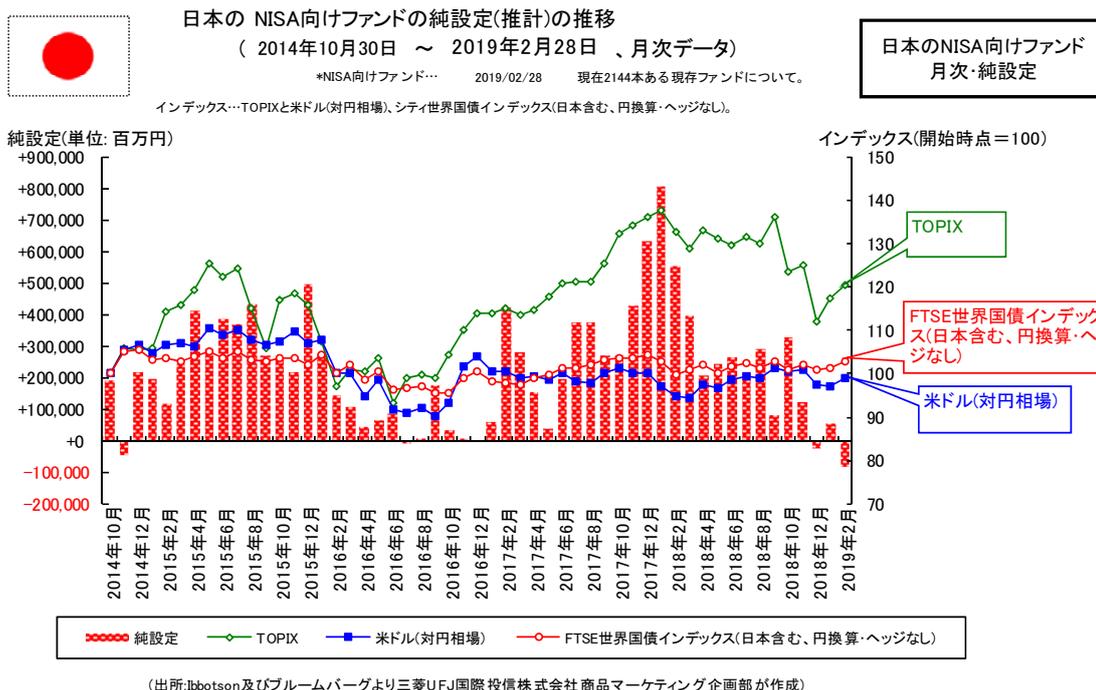
日本株が2019年2月に-189億円と5カ月ぶりの純流出となった。2018年10~12月に日経平均インデックス・ファンドには大きな流入が見られたが、2019年2月にかけてはどうか。その月次純設定推移を分類別に見たのが下記グラフである(\*ETFを除く追加型)。分類については「ロード」、「ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%超」、「ノーロード・信報0.5%以下~つみたてNISAの要件の一つ~」、「ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%以下(\*ほとんど見えない)」としている。分類は、つみたてNISAの要件に「ノーロード・信報0.5%以下」とある事、日経平均株価連動インデックス・ファンドのロードの単純平均が1.76%である事、信報と代行(手数料)の単純平均が各々0.56%と0.29%である事などを参考にしている(\*つみたてNISAの要件について詳細は後述[参考ホームページ]①参照)。

2019年2月に日経平均インデックス・ファンドは-204億円とやはり5カ月ぶりの純流出だった。純流出の大きい分類の順に、ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%超-99億円、ロード-72億円、ノーロード・信報0.5%以下~つみたてNISAの要件の一つ~-23億円、ノーロード・信報0.5%超・代行0.4%以下-10億円だった。2018年10~12月に大きな流入が見られた分類が特に純流出となっている。現在、日経平均株価の水準が2018年10月の日本株急落時をまだ上回っていない事から、今後の株反発により、2016年10~12月や2017年の時の様な純流出となる可能性がある。



## 投信フロー最新動向~新規投資家(NISA向けファンド)はグローバル株、日本株は5カ月ぶりの純流出~

次に新規投資家(NISA向けファンド)の純設定を見る。次頁グラフの通り、最新2019年2月は-851億円と、投信全体と同様2カ月ぶりの純流出。2018年12月(-236億円)や2014年11月(-330億円)を上回りNISA投資が始まった2014年1月以降で最も大きな純流出だった(←2019年1月+539億円←2018年12月-236億円←11月+1500億円←10月+3270億円、\*NISA向けファンド…後述※2参照)。

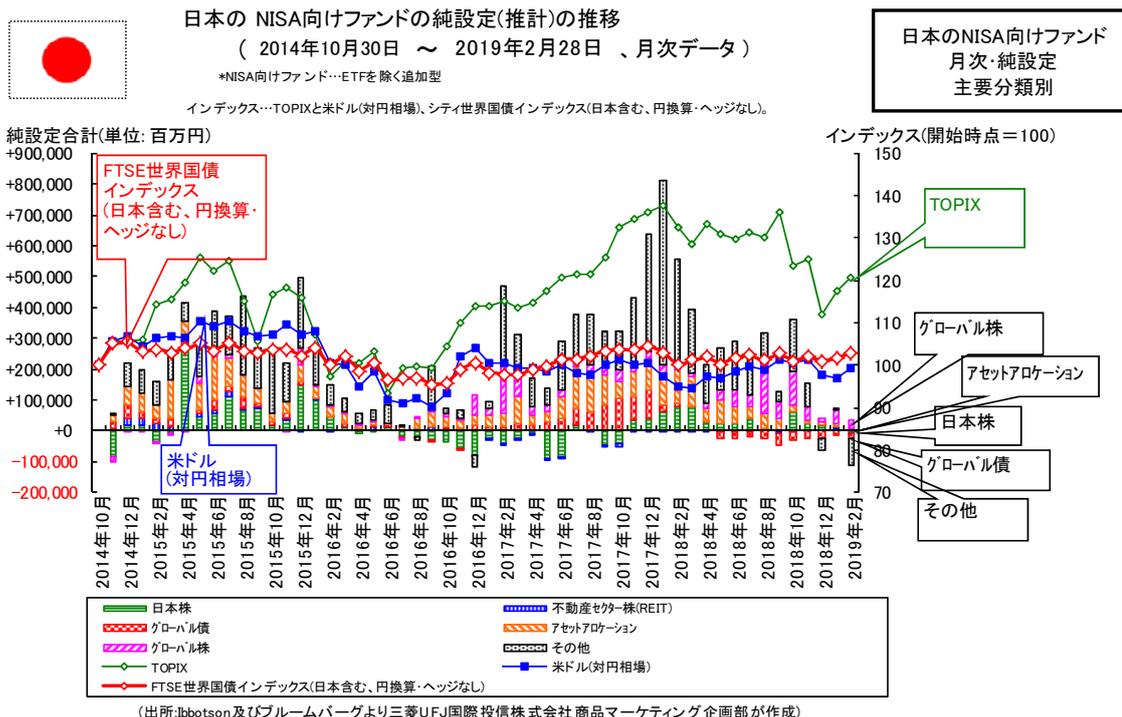


## ※2: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(\*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ]②参照)、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(\*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。

投資信託協会は「NISAにおいては一般的に、投資未経験者層、或いは久々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」とも言っている(URLは後述[参考ホームページ]③参照)。尚、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(\*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2019年2月28日時点で2144本となった。

既存投資家(投信全体)と同様、2カ月ぶりの純流出となった新規投資家(NISA向けファンド)を投資対象(主要分類)別で見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での分類を用いると、最新2019年2月の純設定1位はグローバル大型株(前月1月も1位)、2位はアジア債(前月1月6位)、3位はヘルスケア株(前月1月2位、2018年12月まで3カ月連続1位)、4位はアセット・アロケーション慎重型(前月1月3位)、5位は通信株(前月1月8位)だった(下記グラフ参照~グローバル大型株は「グローバル株」に、ヘルスケア株、アジア債、通信株は「その他」に、アセットアロケーション慎重型は「アセットアロケーション型」に含む※1)。



グローバル大型株は2019年2月でも2019年の年初来(1~2月)でも純資産でも1位となっている。日本株は2019年2月に-84億円と5カ月ぶりの純流出となり、2017年10月(-448億円)以来の大きな純流出となった。

## 投信フロー最新動向～つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)はグローバル株、日本株は5カ月ぶりの純流出～

最後に、つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の純設定も見る(\*つみたてNISA適格投信なので、つみたてNISA以外で購入された分も含む、ETFを除く～つみたてNISA適格投信については後述[参考ホームページ]④参照)。

純設定は、最新2019年2月に+172億円と、前月1月(+478億円)や前々月2018年12月(+440億円)を下回るものの、2017年2月以降25カ月連続の純流入。このつみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)を投資対象別で見ると、最新2019年2月の純設定1位はグローバル大型株(前月1月2位)、2位はアセットアロケーション積極型(前月1月4位)、3位は米国大型株(前月1月3位)、4位はエマージング株(前月1月6位)、5位はアセットアロケーション慎重型(前月1月5位)だった。前月まで4カ月連続で1位だった日本株は2019年2月に-84億円と5カ月ぶりの純流出となり、2017年10月(-448億円)以来の大きな純流出となった。

以上、NISAで何が買われたかについて既存投資家、新規投資家、つみたてNISA投資家の順に見てきた。世界のREIT/リートや債券、株が反発上昇する2019年2月、つみたてNISAを含むNISAで主に買われた投信は前月に引き続きグローバル株だった。

もちろんこれは今後を示すものではないが、こうした情報が「商品が選びにくく種類が多く選択に迷う人」(投資信託協会～URLは後述[参考ホームページ]⑤参照)が多いと思われるNISA等を検討する投資家に少しでも参考になれば幸いである。

以上

[参考ホームページ]

- ①2019年2月27日付ブルームバーグ「アクティブ運用の逆襲始まる」…「<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-02-27/PNKKIQ6TTDS001>」、<https://www.bloomberg.com/news/articles/2019-02-26/active-manager-revenge-that-began-five-months-ago-isn-t-stopping>」、つみたてNISAの要件は2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「[https://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_170424.pdf](https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf)」。
- ②2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」。
- ③2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。
- ④2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立NISAの適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「[https://www.am.mufg.jp/text/oshirase\\_170424.pdf](https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf)」。
- ⑤2013年11月21日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、2018年3月7日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査報告書-2017年」…「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2017/>」。

三菱UFJ国際投信【投信調査コラム】日本版ISAの道 バックナンバー…「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」。

## 本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

### 本資料中で使用している指数について

- ・TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。